

自己評価報告書(最終報告)

報告者

人間形成コース／木内 陽一

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

高度専門職業人といった場合、教師としての人間的な力が大切であると考えている。この点で、教育哲学担当者として、以下のような取り組みをしたいと考えている。

①授業内容について

基盤的な教材や内容を取り上げ、学生の人間観、すなわち多様な視点から人間を見ることができるように努める。

②授業方法について

学生参加型の授業を行い、学生の発言を促すとともに、レジュメが作成されている場合は、その内容や書き方についても指導したい。

③成績評価

厳正な成績評価を行う。出席、提出物を考慮して、総合的に評価する。

2. 点検・評価

総合的に見て、受講生の「積極的な授業への取り組み」に格段の進歩がみられた。

①授業内容

教員を志望する学生が興味を持って読めるような教材を選択した。

人間観を省察するために、西田幾多郎『善の研究』を取り上げ、読破した。

受講生の達成感。充実感はかつて見たことがないほどだった。

②授業方法

「自分の頭で考える勇気を持つ」をモットーに、発言を促した。

「発言しなければならないのと同じ」が「国際基準」と強調した。

③成績評価

主として作成したレジュメを手掛かりに、総合的に評価した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団顧問として、フィルハーモニーの再建に努力したい。

2. 点検・評価

3月18日の学位記授与式の演奏が可能になるところにまで再建した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

ドイツ教育学に関する研究成果を、外国学会で発表する。

2. 点検・評価

韓国ドイツ教育学会でのドイツ語での発表は好評だった。
依頼を受け、投稿原稿にまとめるように努力したが、
年度内にはできなかった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

担当する委員等の任務を誠実に実行する。

2. 点検・評価

担当する委員等の任務を誠実に実行した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

(社)徳島県看護協会の講師として、看護師の継続教育に寄与する。

2. 点検・評価

6月11日の「教育原理」講習で、受講生から高い評価を得た。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)